



いちようだより

コロナ禍の 県市老連の取り組み

◆コロナ禍に、老人クラブの役割を 考えよう

名古屋市老人クラブ連合会

昨年 11 月、市老連女性リーダー研修会を開催しました。参加者は 75 人（会場定員の半数）。受付時には、元看護師のリーダーを中心に、検温、消毒などの感染対策を行いました。一般社団法人 地域問題研究所・主席研究員 池田哲也氏を迎え、「ウィズコロナ時代の老人クラブ活動と地域共生社会」をテーマに、「今は、活動ができない時だからこそ、地域が抱える課題を整理し、老人クラブやコミュニティの役割を見直してみるよい機会。例えば、コロナ対策で従来の活動の仕方に限界を感じたとき、上手に他の人や地縁組織の力を借りることも一つの手、さまざまな世代や立場の人たちと多面的に考えることも大切」とお話をいただきました。

終了後のアンケートには、「コロナで八方ふさがりのなか、何かできることのヒントをいただいた気がします」など、今後の活動に向けた前向きな回答が多くありました。



マスクの下はみんな笑顔（名古屋）

◆3会場をつないで オンライン研修会開催

鳥取県老人クラブ連合会

昨年 12 月、令和 2 年度「地域支え合い研修会」を県内 3 会場（鳥取市、米子市、倉吉市）を拠点にオンラインで開催しました。参加者は全部で 102 名。山梨県小菅村社会福祉協議会と中継し、「コロナ禍での活動—地域みんなが楽しめるウォーキングコースづくり」などについて紹介していただきました。併せて、各会場毎に地元の警察署員による交通安全の講習を行いました。オンラインで初めて行った 10 月の「健康づくり・介護予防研修会」は、音響の問題がありましたが、2 回目は、会場選びやマイク等を整備し、各会場とのやりとりもスムーズに行うことができました。

また、中止した「地域活動リーダー育成研修会」は、4 名のリーダーに集まってもらい、予定していた活動発表の様子を DVD に収録して配布しました。



オンラインの画面に見入る参加者（鳥取）